

### 光陰矢のごとし



矢木西 松澤 莊六

昭和十二年、中国大陸の紛争も拡大の様相を呈し、庶民の生活も厳しさを増して参りました。家業の車大工(車輪や荷車製造及び修理を行う職業)の、特に鉄材の担当に支障が生じ、父は苦勞していたようです。

私も小学校高学年となり、空き地での草野球やメンコ、ビー玉などの遊びを終了し、家業を手伝うようになりました。

やがて戦時統制のもとでの生活へと変わりました。ご近所のお父さんやお兄さんも出征され、働き手が失われていきました。そして小中学生の勤勞奉仕が始

まり、家族が出征している農家に、春は田の代踏みに、秋には稲刈りに出向き、大変感謝されました。

時は昭和十六年十二月八日、日本軍の真珠湾攻撃により、アメリカ軍との戦闘が開始。緒戦は有利に展開するも、次第に後退を余儀なくされ、国土防衛の機運が高まり、私たち工業学校(現在の岡谷工業高校)生徒も軍事訓練に励み、学徒動員では軍需工場での生産に邁進しました。

一方、町内会でも防災訓練が盛んに行われるようになりました。先輩諸兄や級友も予科練に志願し、教室に空席が目立つようになると、学校に陸軍航空研

究所の施設が疎開して、稼働を開始。私たちは軍需工場から異動して、私は加給機部門に配属され、墜落したグラマン戦闘機のスーパーチャージャー(過給機)の分解にあたりました。分解はできても再組み立てはできず、アメリカの科学技術のレベルの高さを痛感しました。

戦局は沖繩戦での守備隊や特別攻撃隊の活躍もむなし、広島、長崎に原子爆弾が投下され、焦土となりました。

昭和二十年八月十五日、天皇陛下の玉音放送があり、終戦となりました。しばらくして、町内に帰還してくる軍服姿の若者が見かけられるようになり、志願をした級友も復学して、教室も賑やかになりました。お互いの無事を喜び合い、勉学に励む本来の姿を取り戻しました。



### 「一つの花」を読んで

下諏訪南小五年一組

#### 大好きな人を残して戦争に

私は『一つの花』を読んで、「どうして、戦争に行きたくないと思ってる人や大好きな人たちが、戦争に行かないといけないの?」と思いました。「何もしない人がまきこまれて、戦争に行かないといけない。みんなそれぞれ好きな人がいるのに」と思っ、悲しくなりました。もしもお父さんや大好きな人が戦争に行ったら、ずっと悲しんでいると思います。私以外にも悲しむ人はいっぱいいると思います。戦争のおきていない今に生まれてきて、私は幸せだと思えました。

(長崎響)

#### 家族や友達を失う戦争

私は戦争のことを知って、すごくこわいな、と思いました。戦争に行った多くの人は、命を落としてしまっています。その人たちの中には、家族がいる人

もたくさんいると思います。その家族は、もっと悲しくなつたと思います。戦争は、家族や友達を失ってしまいます。だから、戦争はこわいなと思いました。

(田中陽菜子)

#### 今も「広島病」にかかる人が

戦争は悲しいな。今でもけがしている人がいるから…。原発でいままも広島病にかかる人がいる。他の国でも、テロや戦争がおこっている。戦争がなくなれば、けがする人もいなくなる。争う人もいなくなる。

(松本治美)

おとうさんは、にっこりわらうと、なにもいわずに、汽車に乗っていつて見つけながら…。

「一つの花」

今西祐行 作

(ポプラ社)



### 『平和のとりでを築く』学習後

二十二年度 下諏訪北小八年一組

#### 原爆について考えたこと

連合軍は、軍が爆弾を落としたりビラをまいたりして何度も降伏を説得したが、日本は応じようとしなかった。傷ついた日本兵を助けようとしたアメリカ兵まで、手りゅう弾で巻き添えにした。また戦闘機ごと、突っ込んでくるような考えられないこともした。ドイツもイタリヤも降伏したが、日本はしなかった。だから原爆を投下した。一日も早く戦争を終わらせたかったからだと言われています。僕はそれには反対です。原爆を投下するのでなく、粘り強く説得してほしかった。

今、世界には原爆などの核兵器がたくさんあります。一発で市街を焼き尽くし、一瞬のうちで数十万人もが生命をうばわれます。川は死者でうまり、生き残った人も傷つき、その多くが死亡するほどのすごい破壊力があります。原爆投下は絶対に

### ハロウズ

寒さに鍛えた梅は  
風雪に耐えて良く香る  
温室に育った菊は  
淡い霜にも萎えしほむ  
甘えになれて生きる者は  
おのれにすらうち克てない

(南無手帳 松原泰道 他編)

極力簡便に欲求の満足をお願い、機械化を図り、物質社会の充実を進めてきた結果、より安易に生きる路線を求め風潮がはびこってまいりました。例えば、電気は際限なく使えるという生活を進めてきた私たちが、今回の東日本大震災によって実は危い足元に気づかされました。しかし、簡便に欲求を実現させることに満足している社会には、簡便さを手放すことは、至難の業でありましょう。

「寒さに鍛えた梅」や「温室に育った菊」また「甘えになれて生きる者」とは何を意味するか?生活が向上し便利になった今だからこそ、背筋を伸ばし、襟を正す機会と考えているところであります。

(林)

よくない、と思います。

(吉村裕紀)

#### 安心して暮らせる社会に

戦争について調べてみると、国どうしだけではなくて、国の中の戦争も多くみられます。まだ続いている国もたくさんあります。

戦争の続いている国では、人手不足になると、少年少女を戦わせたりするそうです。アルコールを飲ませ泥酔させられ、ふらふら状態で、悪いことだともわからずにやっていることもあるそうです。

日本は平和な国ですが、私たちが日々安心して、幸せに暮らしているその裏側では、学校に行けない子ども達がいったり、苦しんで暮らしている人たちがいたりすることを知ってほしいと思います。

人々が安心して暮らせる社会になるために、人任せにしないで、自分たちにもできる小さな事からでもよいので、やっつけていきたいです。

(木暮咲希)